JAPAN SOCIETY FOR INTERIOR STUDIES

JASIS NEWS

NO. 59

2017/9/30

日本インテリア学会会報

■会長挨拶

総会を終えて

学会長　直井英雄（東京理科大学）

本年度の総会が、去る７月１日に千葉工業大学で行われ、皆様のご協力により、無事終了しました。ここでは、総会での議案のうちのいくつかについて、会長としての考えを若干、補足させていただきます。

まず、一つ目は役員改選の件です。本年度は、３年ごとの役員改選の年に当たっておりました。所定の手続きを経て新役員が決まり、新会長には私が、新副会長には西出、加藤、上野の３先生が選任されました。

新機軸は、これまで副会長２人体制だったのを、私のたっての希望で３人体制にしていただいたことです。学会の組織は３部門で構成されておりますが、この３部門を３副会長に担当していただく、すなわち、西出先生には研究部門を、加藤先生には支部部門を、上野先生には運営部門を、それぞれ担当していただく形にするのがよいと考えたのです。

また、新理事の選出ですが、投票枠、支部長枠以外に設けられている会長推薦枠を使って、なるべく女性、若手を起用し、学会の運営に参加していただけるよう図りました。これからの学会をさらに活性化するための力になっていただけるものと期待しております。

二つ目は、創立30周年の件です。ご承知のように、本学会は来年、創立30周年を迎えます。これを記念する企画を求めましたところ、関西支部から、学術文献のアーカイブ化の提案がありました。まさに学会が取り組むのにふさわしい企画だと思いましたが、いろいろと難しい問題もあるようなので、まずは関西支部で検討してもらうことといたしました。その検討結果を受け、学会としてさらにじっくり検討していきたいと考えております。

30周年の企画は、もちろんこれだけとは限りません。会員の皆様におかれましても、この学会にふさわしい、何かいいアイディアがありましたら、これからでもいいので、どうかご提案ください。

三つ目は、いま進められているインテリア関連団体の連合体への参画の件です。本学会は、もちろん学術団体ですから、あくまでもその立場からの参画という形になるでしょうが、参画する意味は大いにあるのではないかと考えております。そのための話し合いの場には、私が代表で出ておりますが、皆様とも相談しながら、進めていきたいと思っております。ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

■平成29年度日本インテリア学会 第1回理事・評議員会　議事録

記録　松崎　元（千葉工業大学）

日　時：平成29年７月１日（土）11:00〜12:30
会　場：千葉工業大学 津田沼校舎
出席者：直井、西出、加藤、上野、江川、金子、河田、河辺、白石、早野、高月、谷川、棒田、松本（吉）、松崎、森永、若井＜理事17名＞
河村、日原、藤井＜評議員３名＞

配布資料：
１）日本インテリア学会理事・評議員会議事次第
２）平成29年度日本インテリア学会 総会資料
（２頁目差し替え）

３）日本インテリア学会（平成29/30/31年度）評議員名簿
４）平成28年度日本インテリア学会第２回理事会議事録
５）平成28年度日本インテリア学会総会議事録
６）平成29年度日本インテリア学会臨時理事会議事録
７）「論文報告集募集規定」改訂の議題提案
８）平成29年度第１回理事会入退会者名簿
（2016年10月24日～2017年７月１日）
９）30周年記念事業として論文集・梗概集のアーカイブ化についてのご提案（関西支部：井上）

議　事：

１．開会宣言・会長挨拶（進行：直井会長）

２．定足数の確認（白石）

理事出席者17名、委任状５通、合計22（定足数13）で、理事会の成立に必要な定足数（会則15条）を満たしていることが確認された。また、評議員では、出席者20名、委任状28通、合計48（定足数31）で、評議員会の成立に必要な定足数を満たしている。配布資料を確認の上、議事に移った。

３．第１号議案：平成28年度　事業報告および決算報告（案）の件

・白石総務委員長より、平成28年度の事業報告および決算報告（案）について、資料２に基づき説明がなされた。
・決算報告（案）＜収入の部＞、賛助会員は４社５口であったが、マナトレーディング社がH28年度限りで退会し、３社４口となる。
・昨年度の名古屋大会実行委員会（名古屋工業大学・東海支部）の尽力により、大会準備費に対する参加費等からの差額として、事業収入の合計が344,306円のプラスとなった。
・以上＜収入の部＞予算額合計5,911,495円、決算額合計が6,826,609円、差額が915,114円であった。
・決算報告（案）＜支出の部＞、事務局の宛先変更に伴い、項目３の印刷代で封筒分が増加した。
・調査研究費では、期限付き研究部会の募集時期と周知の問題もあり、申込みがなかったため、229,568円の差額となった。
・予備費の決算額が21,380円と少ないが、各支部への選挙経費支払いが遅れたためで、次年度に計上する。
・以上＜支出の部＞予算額合計5,911,495円、決算額合計が6,826,609円、差額が915,114円であった。
・佐藤・上野（弘）両監事による監査報告（松崎代読）があり、平成28年度の事業報告および決算報告（案）は、資料１（Ｐ１）の通りで異議なく承認された。

４．第２号議案：平成29年度　事業計画および予算（案）の件

・白石総務委員長より、平成29年度の事業計画および予算（案）について、資料１（Ｐ２差し替え）に基づき説明がなされた。
・次年度創設30周年を迎えるにあたり、会員相互の協力によって、学会運営に関する見直しを進めたい。
・予算（案）＜収入の部＞会費収入で、賛助会員が１社退会したため、３社４口で120,000円の予算額とした。
・予算（案）＜支出の部＞、高月委員長より表彰委員会の予算について質問があり、白石総務委員長から、同委員会の予算も委員会活動費に含め、備考欄に加筆する旨回答があった。
・平成29年度の事業計画および予算（案）について、資料１（Ｐ２）の通りで異議なく承認された。

※資料の訂正：支出の部、大会準備費欄「第27回大会→第29回大会」

５．評議員及び理事選挙結果について

・白石総務委員長より、平成29/30/31年度の評議員・理事選挙の経緯について説明がなされた。
・各支部による選挙の結果、資料３の通り93名の評議員が選出された（１名退会により計92名）。
・理事は資料２（３頁）の通りで、そのうち支部長として理事を担うのは、小澤、早野、内田、河辺、谷川、森永の６名、棒田、片山の２名は理事選挙による選出であった。直井会長より会長推薦枠による５名の理事（江川、金子、高月、松崎、松本（吉））が紹介され、評議員の互選により選ばれた12名と合わせて、合計25名の理事が承認された。
・会長の選出は、臨時理事会（資料６）において、直井英雄氏が承認され、その旨確認された。
・副会長は、直井会長の推薦により、西出（研究部門担当）、加藤（支部部門担当）、上野（運営部門担当）の３名が承認されている。
・監事は、佐藤公信、上野弘義両氏が信任された。

※資料の訂正：資料２（３頁）平成29年度役員（案）、「理事」建部謙治→ペリー史子

６．名誉会員の推薦について

・平成29年度の名誉会員については、支部からの推薦はなかった。会長、副会長を含む総務委員会会議で検討し、資料１（４項）の通り、谷口汎邦氏、栗山正也氏、河村容治氏、長山洋子氏、小宮容一氏の５名を名誉会員として推挙することが承認された。今年度の大会時に名誉会員の称号を授与する。

７．論文審査規定について

・渡辺論文審査委員長欠席のため、委員の直井会長より、資料７に基づいて説明があった。
・投稿時に「論文」か「報告」の申請を行う、宛先の広島工業大学学科名称を変更する、文言の一部を修正する、以上３点について、承認された。

※資料の訂正：論文報告集原稿執筆要領（右２.（２））

また、１ページ目の最上「業」→「行」

８．平成29年度第１回理事会、入退会者名簿

・資料８の通り、前回理事会以降の入会者３名、退会者19名、賛助会員の退会１社が承認された。

・2017年７月１日時点での正会員は320名、準会員が27名、賛助会員が３社である。

９．その他

・平成29年度の大会（北九州：九州女子大学）について、大会実行委員長の森永九州支部長より、大会概要と準備の進捗について報告があった。産業遺産に関する講演会、見学会を用意している。企業展示ブースを設け、数社申し込み、問い合わせを受けている。

・平成30年度の大会について、内田関東支部長が欠席のため、白石総務委員長より、関東支部で開催する予定であるとの報告があった。

・日本学術協力財団（日本学術会議）賛助会員について、同財団より年１口５万円の賛助会員加入依頼があった。学術協力団体として認められている状況も鑑み、加入することが承認され、今年度は予備費から支出することが確認された。

・論文のアーカイブ化について、関西支部（小宮）より資料９（担当：井上）の通り、提案がなされた。白石総務委員長から資料に基づいて概略の説明があり、今後、関西支部を中心に学会としてアーカイブ化検討会を設けて議論を進めることとなった。

議事終了後、高月理事より、退会者名簿の田辺麗子名誉会員が、３月21日に逝去され、告別式に出席された旨、報告があった。

以上

■平成29年度 日本インテリア学会通常総会議事録

総務委員長　白石光昭（千葉工業大学）
記録　小俣祐樹（トランスコスモス株式会社）

日　時：平成29年７月１日（土）13:30～14:50
会　場：千葉工業大学 津田沼校舎
出席者：直井、加藤、西出、上野、内田、江川、金子、河田、河辺、河村、白石、高月、谷川、早野、藤井、棒田、松崎、松本（吉）、森永
＜理事19名＞
日原、清水＜評議員２名＞
小俣、仲谷、西岡、桑原＜正会員４名＞

配布資料：

１）日本インテリア学会理事・評議員会議事次第
２）平成29年度日本インテリア学会 総会資料
（２頁目差し替え）
３）日本インテリア学会（平成29/30/31年度）評議員名簿
４）平成28年度日本インテリア学会第２回理事会議事録
５）平成28年度日本インテリア学会総会議事録
６）平成29年度日本インテリア学会臨時理事会議事録
７）「論文報告集募集規定」改訂の議題提案
８）平成29年度第１回理事会入退会者名簿
（2016年10月24日～2017年７月１日）
９）30周年記念事業として論文集・梗概集のアーカイブ化についてのご提案（関西支部：井上）

議　事：

１．開会宣言（進行：金子）

２．会長挨拶（直井会長）

３．定足数の確認（金子）

出席者は25名、委任状102通、合計127（定足数80）で、総会の成立に必要な定足数（会則15条）を満たしていることが確認された。

４．議長団選出

議長および書記の選出に際し、事務局案により議長を直井会長、書記を小俣氏、議事録署名人を清水評議員、高月理事の2名に依頼し、直井会長の進行により、議事に移った。

５．第１号議案：平成28年度　事業報告および決算報告（案）の件

・白石総務委員長より、平成28年度の事業報告および決算報告（案）について、資料2に基づき説明がなされた。

・決算報告（案）＜収入の部＞、正会員の会費納入額予算は80％で算出していたが、実際の納入率は90％超であった。

・昨年度の名古屋大会実行委員会（名古屋工業大学・東海支部）の尽力により、大会準備費に対する参加費等からの差額として、事業収入の合計が344,306円のプラスとなった。

・以上＜収入の部＞予算額合計5,911,495円、決算額合計が6,826,609円、差額が915,114円であった。

・決算報告（案）＜支出の部＞、事務局の宛先変更に伴い、項目３の印刷代で封筒分が増加した。

・調査研究費では、期限付き研究部会の募集時期と周知の問題もあり、申込みがなかったため、229,568円の差額となった。

・予備費の決算額が21,380円と少ないが、各支部への選挙経費支払いが遅れたためで、次年度に計上する。

・以上＜支出の部＞予算額合計5,911,495円、決算額合計が6,826,609円、差額が915,114円であった。

・佐藤・上野（弘）両監事による監査報告（松崎代読）があり、平成28年度の事業報告および決算報告（案）は、資料１（P1）の通りで異議なく承認された。

６．第２号議案：平成29年度 事業計画および予算（案）の件

・白石総務委員長より、平成29年度の事業計画および予算（案）について、資料１（P2差し替え）に基づき説明がなされた。

・次年度創設30周年を迎えるにあたり、会員相互の協力によって、学会運営に関する見直しを進めたい。

・予算（案）＜収入の部＞会費収入で、賛助会員が１社退会したため、３社４口で120,000円の予算額とした。

・＜収入の部＞合計の予算額は、6,138,791円となった。

・予算（案）＜支出の部＞で、項目６の委員会活動費備考欄に「表彰委員会」を加え、予算の内訳を調整する。

・予備費に、日本学術協力財団賛助会員の会費として、１口５万円を計上する。

・以上、支出の部合計の予算額は4,570,000円、次年度繰越金が1,568,791円で、合計6,138,791円となった。

・平成29年度の事業計画および予算（案）について、資料１（P2）の通りで異議なく承認された。

※資料の訂正：支出の部、項目６の委員会活動費備考欄に「表彰委員会」を加え、大会準備費欄「第27回大会→第29回大会」と修正する。

７．評議員及び理事選挙結果について

・選挙管理委員の江川理事より、平成29/30/31年度の評議員・理事選挙の経緯について説明がなされた。

・各支部による選挙の結果、資料３の通り93名の評議員が選出され異議なく承認された（１名退会により計92名）。

・理事は資料２（３頁）の通りで、そのうち支部長として理事を担うのは、小澤、早野、内田、河辺、谷川、森永の６名、棒田、片山の２名は理事選挙による選出であった。評議員の互選により選ばれた12名と合わせて、20名の理事が承認された。

・会長の選出は、臨時理事会（資料６）において、直井英雄氏が承認されており、総会としても異議なく承認された。

・副会長については、直井会長より３部門の担当として、西出（研究部門担当）、加藤（支部部門担当）、上野（運営部門担当）の３名が推薦され、異議なく承認された。なお、会則第12条における職務代行の順位は、西出、加藤、上野の順とする。

・直井会長より、学会の活性化を目的として、会長推薦枠による５名の理事（江川、金子、高月、松崎、松本（吉））が紹介され、上記20名に加え、合計25名の理事が承認された。

・監事は、佐藤公信、上野弘義両氏が承認された。

※資料の訂正：資料２（３頁）平成29年度役員（案）、「理事」建部謙治→ペリー史子、組織（案）の研究部門「期限付き研究部会」と修正する。

８．その他

・平成29年度の名誉会員について、資料１（４項）の通り、谷口汎邦氏、栗山正也氏、河村容治氏、長山洋子氏、小宮容一氏の５名を名誉会員として推挙することが承認された。今年度の大会時に名誉会員の称号を授与する。

・平成29年度の大会（北九州：九州女子大学）について、大会実行委員長の森永九州支部長より、大会概要と準備の進捗について報告があった。産業遺産に関する講演会、見学会を用意している。詳細は九州支部のホームページを参照されたい。

・内田関東支部長より、平成30年度の大会について、10月末に千葉工業大学を会場とし、内容の詳細はこれから検討する旨報告があった。

・白石総務委員長より、日本学術協力財団（日本学術会議）賛助会員について、同財団より年１口５万円の賛助会員加入依頼があり、今年度の予備費から支出することが確認された。

・渡辺論文審査委員長に代わり直井会長より、資料７に基づいて、投稿時に「論文」か「報告」かの申請を行うよう、「論文報告集募集規定」が改訂される旨報告があった。

・論文のアーカイブ化について、関西支部より資料９の通り提案があり、白石総務委員長から資料に基づいて概略の説明があった。今後、関西支部を中心に学会としてアーカイブ化検討会を設けて議論を進める旨報告があった。

・期限付き研究部会の募集について、西出副会長より、大会案内同封の資料でお知らせした通り、応募の依頼があった。

総会の様子

なお、総会終了後、各支部からの近況報告があり、北陸支部（棒田支部長）、東海支部（河辺支部長、河田前支部長）、中国・四国支部（谷川支部長）、九州支部（森

永支部長)、関東支部（内田支部長)、関西支部（加藤副会長)、東北支部（日原評議員）から活動状況と今後の抱負が述べられた。また、表彰委員会（高月委員長）より大会時の卒業作品展について案内があった。

以上

懇親会の様子

■総会シンポジウム記録

記録　棒田邦夫（金沢学院大学）

今年度のシンポジウムは「住まいの安全性と日常災害」と題し、長きにわたり日常災害とその安全性について取り組まれている、直井英雄会長にご講演頂いた。講演は日常災害について研究を始めて50年の歳月、日常災害の被害の実態について、これからの日常災害の対策の大きく三つのテーマを中心に進められた。

１．日常災害研究の概要

先生が日常災害研究に取り組まれたきっかけや、研究として進めてゆかれた経緯についてご紹介いただいた。「日常災害」という言葉は、建築に関わって生じる様々な事故の総称として直井先生が初めて用いられた。はじめは1970当時、修士論文のテーマとして火災について取り組んだのがそのきっかけとのことであった。その後、松下清夫先生、内田祥哉先生の指導の下、当時余り注目されていなかった建築で起こる事故について、宇野英隆先生らと共に研究を進められた。全く新しい「日常災害」という領域の研究を、救急車の出動記録から事故の発生量を推量したり、膨大な実証実験や災害防止の検証実験を十数年繰り返すことで、死亡被害からケガの程度の違いによるメカニズムを少しずつ把握するなど、手探りで進めてこられた研究のご苦労を伺うことができた。

２．日常災害による被害の実態

２．１　日常災害の位置づけと種類

日常災害の種類とその安全性への取り組みについて解説された。建築の安全性とは、構造・火災・日常の安全性の３つの柱があり、その日常安全性を脅かす日常災害の種類としては、墜落、転倒、落下物、感電、中毒、溺水、火傷などのあることが紹介された。さらに先生はこれを大きく落下型・接触型・危険物型に分類されている。

２．２　日常災害による被害の実態

先生は実態を把握するに当たり、人口動態統計から死亡被害データを分析し、記録が残りにくい重・軽傷被害についてはアンケート調査などからデータ収集を行っている。

グラフを用いた説明によると、建築の事故や災害による死亡の大半を日常災害が占めており、墜落事故数はこの50年間あまり変動していないが、階段からの転落事故と床での転倒事故は増加傾向にあり、これは高齢者によるものと考えられている。また高齢者の増加とともに特徴的といえるのは溺水、主に風呂場での事故で、1985年頃から急増していることが紹介された。このような増減傾向は、建物が改善されてきた影響などももちろん考えられるが、大きいのは人間側の特性の変化の影響で、少子高齢化や居住形態の変化がきいているのではないかと指摘された。

２．３　日常災害による高齢者の被害

近年の特徴として、先生は高齢者の被害について着目され、年齢別のデータの分析を進めている。墜落事故・転倒事故・溺水事故はいずれも幼児・高齢者の被害が多いが、特に高齢者の被害が増加している理由などを解説して頂いた。また性差では男性が多い傾向も指摘された。一方で幼児については、少子化などの影響で、大人の目が行き届く状態が増えたことで溺水や火傷による被害が減少する傾向にあるとの指摘もあった。

２．４　日常災害を含む諸事故の海外事情

世界と日本の日常災害事情を比較し、日本の特徴として溺水事故が極端に多いことをあげられ、これは入浴形態の違いからくるものと解説された。次に落下型の事故については、ヨーロッパ諸国の事故件数の多さを指摘され、これは都市や住宅の床が全体として硬いというところからくるものではないかとの先生のお考えが紹介された。

３．日常災害の防止対策の考え方

３．１　日常災害の災害機構と防止対策の考え方

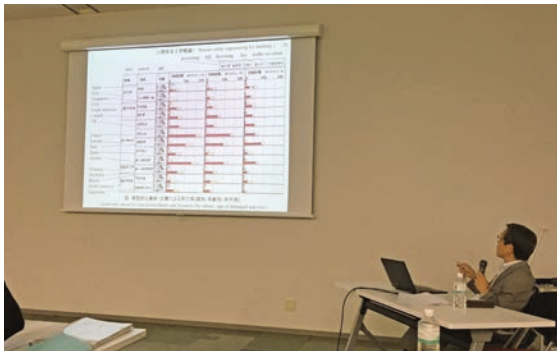
日常災害のメカニズムをパターン化して分類し、それぞれの防止対策を検討する必要性を解説された。例として転倒事故は「床で滑ってバランスを崩す」という起因事故と「その結果お尻を床にぶつける」という傷害事故の２つが連続して起こり、さらに「床の滑りやすさ」といった環境要因と「厚手の服を着ていた」などの人的要因が加わって、そのからみあいで事故の様相や被害の大

きさが変わってくる点を説明して頂いた。これらの要因をそれぞれ注意すれば事故は防げる可能性が高まるが、全てに理想的な対策をたてることは現実的には無理なので、環境側・人間側で何をどう改善し、注意すべきかを整理することの重要性が説かれた。

３．２　「安全」と「自由」の相克

最後に「安全という善を求めれば、規制という悪が増加し、自由という善を求めれば危険という悪が増える」旨のご発言があり、安全問題の奥に横たわる根源的な難しさについての説明があった。この部分は先生のお言葉をそのまま掲載させて頂き、本報告のまとめとさせて頂くことにする。

〝安全、危険の側面だけでいうと「安全」を求めることがいいことだという非常に単純な結論になるわけですけれども、一方で、規制と自由ということでいうと、やっぱり人間の本性として自由を求めるということになって、どうも安全と自由というのは対角線の関係にあってうまくいかない。冗談で言うのですけれど「住宅でそんなに事故が多いのだったら何か安全にする画期的な手はないのか」「まぁ、住宅の中で常にヘルメットを着用、お風呂は禁止、そういうようにすればそうとう安全になりますよ」と。もちろんそんなバカバカしい話はないわけですよ。住宅の良さとか、豊かさっていう自由さも、安全と同じく一方的には求められない。安全と自由はどうもそういう関係にあってですね、うまく両立できない。それはそうなのですが、そのあたりを深い理解に立ってうまく調整するのが、われわれ専門家の役目ではないかというのが、私の今日の結論です。〞



シンポジウムの様子

■第29回大会（九州）準備概要

大会実行委員長　森永智年
（九州女子大学）

29th JASIS 2017 in Kyushu

本年度の大会は、平成29年10月21日（土）～22日（日）に九州女子大学で開催いたします。九州での開催は８年ぶりになります。会員の皆様のご参加をお待ちしております。なお、およそのタイムスケジュールは下記のとおりですが、最終的な内容は、10月発行の論文梗概集に同封の大会プログラムをご覧ください。

■日時：10月21日（土）

１）見学会　13：00～18：00
（受付は12：40～、13：00には出発しますので、遅れないようにお願いします）
＊集合場所・解散場所：小倉駅北側駐車場
（小倉駅北側２階デッキより見えます）
見学先：TOTOミュージアム、旧蔵内邸

２）研究懇談会　19：00～21：00
（受付18：00～）
会場：ステーションホテル小倉
（小倉駅南側　小倉駅ビル内）

■日時：10月22日（日）

１）大会会場：九州女子大学　思静館３、４階
開会式：９：30～９：45（受付開始９：00）
論文発表・１部　（10：00～12：00）
企業展示　（９：00～17：00）
卒業作品展　（９：00～17：00）
昼食・理事会　（12：00～13：15）
論文発表・２部　（13：30～14：45）
講演会：15：00～16：15
市原猛志氏　「明治日本の産業革命遺産」と北九州の産業遺産～八幡製鐵所関連資産を中心に～」
閉会式・表彰式：（16：15～17：00）

皆様のご協力で、大会参加者は93名、発表題数が56件となりました。また、見学会・懇親会もお蔭を持ちまして満員になりました。この場を借りて感謝申し上げます。

旧藏内邸外観の一部

会場の九州女子大学正門

■平成29年度運営委員会だより

□総務委員会

委員長　白石光昭（千葉工業大学）

今年度は理事評議員会を７月１日（土）の午前中に、総会を同日の午後に開催しました。

それぞれの議事録にもありますように、皆様のご協力のもと、無事に終了することが出来ましたことをご報告しますとともに、御礼申し上げます。

今年度も基本的な活動計画や予算計画に大きな変化はありませんが、会員数の規模に合わせた活動を継続できるよう、皆様のご協力をお願いいたします。以下に年度の活動計画を記載しておきます。

「支部活動、研究部会活動、学会大会の開催のほか、会報や研究発表梗概集、論文報告集の発行、シンポジウムの開催など、学会員に還元すべき必要最小限のサービスの実施を前提に計画することを基本とする。今年も当学会の規模を考慮し、支部活動を中心に考えていくべきと考えるので、各支部にはより一層活発な活動、そしてご協力を願いたい。

また、今後も当学会の規模を考慮した堅実な前進を前提に、本学会は次年度30周年を迎えるのを踏まえ、学会運営に関する根本的見直しを継続的に検討していく予定であるが、そのためには会員相互の協力が欠かせない。ご協力をお願いするとともに、各人からの積極的な提案もお願いしたい。

なお、今年度は九州支部のご協力により大会準備を進めている。盛会となるよう皆様の協力もお願いしたい。」

□広報委員会

委員長　棒田邦夫（金沢学院大学）

７月１日（土）12時30分より千葉工業大学にて第１回広報委員会を行いました。主な議題は①広報委員の確認と役割、②今年度・次年度の会報編集担当者と内容について協議しました。①では、広報委員に井上貴詞氏、小俣祐樹氏、清水隆宏氏、西岡基夫氏、松尾兆郎氏、棒田邦夫氏の６名であることを確認し、学会の啓蒙活動として会報の編集に従事し、年３回の発行について了解いただきました。②では、会報の編集を各委員の持ち回りで担当することを了解いただき、今後の会報編集担当者を下記のとおり決めました。

会報第59号（夏・秋号）：西岡基夫氏
会報第60号（冬号）：小俣祐樹氏
会報第61号（春号）：清水隆宏氏
会報第62号（夏・秋号）：松尾兆郎氏
会報第63号（冬号）：井上貴詞氏
会報第64号（春号）：棒田邦夫氏

会報の内容について夏・秋号は主に理事＆評議委員会と総会及びシンポジウムの記事を、冬号は主に大会報告及び講評の記事を、春号は主にインテリア学会として残しておきたい学会員の専門研究記録の記事を掲載することを説明し、了解していただいた。今年度より３年間、この陣容で広報委員会業務を行っていきます。

至らない点多々あるかと存じますが、よろしくお願いいたします。

□国際委員会報告

委員長：ペリー史子（大阪産業大学）

今回の報告は、とくにありません。

□論文審査委員会

委員長　渡辺秀俊（文化学園大学）

アジア地域におけるインテリア系の国際学会であるAIDIAの事務局担当国は、数年ごとに替わっています。2014年度までは韓国、2015年から2016年度まではタイが事務局でしたが、今年は中国が事務局担当国になりました。また、今年のAIDIA 論文集については、７月24日を応募の締め切りとし、その後、本学会において査読審査を実施しました。その結果、採用となった２編の論文を、８月末に中国のAIDIA事務局に送付しました。今後は、AIDIA事務局での編集を経て、例年通りとすれば、年末か年明けに論文集が発刊される予定です。応募していただいた会員の皆様、査読をしていただいた査読委員の皆様、AIDIA事務局との連絡と事務手続きをしていただいた日本インテリア学会事務局の皆様に御礼申し上げます。

本年度の日本インテリア学会論文報告集については、10月末が応募締め切りの予定です。近日中に論文募集の告知を学会ホームページにて告知させていただきます。

多くの会員の皆様からの論文投稿をお待ちしております。

なお、日本インテリア学会の論文報告集には、従来から「論文」と「報告」という２種類のカテゴリーが設けられていますが、応募時において、いずれのカテゴリーでの投稿であるかを明記するように論文報告集募集規定が改定されました（平成29年７月１日　理事会決定）。規定では、論文は「 独創性に富み、理論的または実証的な研究の論文で、目的・方法・手段・結論等が明記されたもの」、報告は「 特色ある資料・史料・調査・計画・実験・施工などの報告で、新しい知見を含み学術的に価値の高いもの」と位置付けています。今後は、よりふさわしいカテゴリーでの論文投稿をしていただきますように、会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

□表彰委員会

卒業作品展担当　高月純子（女子美術大学）

【卒業作品展のご案内】日本インテリア学会の大会開催校のご協力のもと『卒業作品展』は本年度で第24回を迎えます。日本全国のインテリア系の課目を置く教育機関は大学、短期大学、専門学校、工業高等学校、職業訓練校を合わせて現在のところ約300校になります。様々な種類の学校、そして建築系、造形系、家政系などのジャンルが一同に会するこのような展覧会は前例を見ないのではないでしょうか。本展覧会の趣旨は、直接的な教育効果はもとより、学生の「卒業」という最も新鮮な視点から「日本のインテリアとは一体どのような概念なのか」を表現方法も含め社会状況・歴史と照らし変遷を汲み取る一つの貴重な場を持つことと考えます。今年度は大会開催校の九州女子大学・思静館の４階廊下を展示会場として10月22日（土）９:00～17:00に開催致します。ぜひ「インテリアとは」を確かめにお越しください。

【参加校】今年度は45学校54作品の出展登録を頂きました。内訳は大学39校（47作品）、短期大学１校（１作品）専門４校（５作品）、工業高校１校（１作品）。登録学校には今後、画像データの提出と作品パネルを開催校へ送付して頂きます。これらはそれぞれの学校や個人の費用でお願いしております。そのため公立高等学校は参加したくても中々できないという声を頂きます。熱心に毎年参加していただく大学でも担当教員の退官で引き継ぎ後に辞退される学校も多くあります。参加者が多ければ良いという訳でもない前提はありますが、ご協力していただいている教育機関の皆様は、多くの条件を乗り超えて尽力して頂いている現状です。心から感謝を申し上げます。

また、今年から登録要項に１学校１名の制限を検討しましたが、既に前年度に２名の選抜をしているため１人に絞ることが出来ない学校が多く、今年度は例年通り２名までの受付になりました。新体制には掘り下げた議論と検討と、周知までの時間が必要と思われます。

【表彰と審査】1992年より教育部会主催で継続してきた卒業作品展ですが会員・学生・生徒・一般市民の方へのインテリアへの関心と理解をより深める機会と、教育機関の質を高め、卒業生にキャリアを贈るために2007年から「賞」を設けています。審査委員会の構成は規定により学会長（審査委員長）、大会実行委員長、大会実行委員、教育部会長、表彰委員を各１名（その他委員長が必要と認める場合１名以内）。賞の種類は、最優秀作品賞１名、優秀作品賞３名、奨励賞 - 高校の部が若干名。学会大会の展示期間中に審査を行い、閉会式で審査経過と受賞者を発表後、学会長から受賞者に表彰状と記念品を授与します。受賞者が大会不在の場合は代理者が受領し、その後報告を行います。受賞作品は学会HP、学会広報誌に審査経過と受賞者を掲載させて頂く予定です。どうぞよろしくご照覧ください。

■平成29年度支部だより

□北海道支部

支部長　小澤　武（小澤建築研究室）

今回の報告は、とくにありません。

□東北支部

支部長　早野由美恵（東北芸術工科大学）

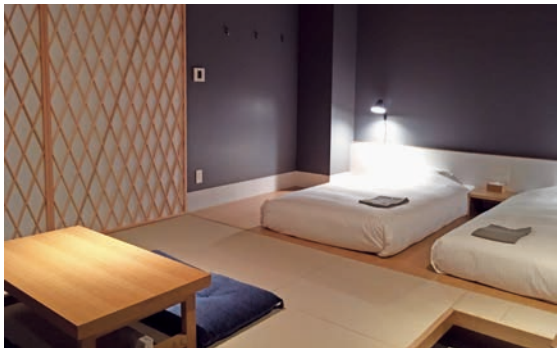
今回の報告は、とくにありません。

□北陸支部

支部長　棒田邦夫（金沢学院大学）

昨年に引き続き第２回北陸支部の発表会を11月末に催します。場所については現在調整中ですが高岡銅器の作家さんたちとのディスカッションを絡めながらの発表会を考えております。見学会として８月24日（木）18時30分よりシェアホテルKUMUのオープニングに参加して元オフィスビルをリノベーションしたカフェや客室を見学してきました。この建物は２年前に開業したシェアホテルHACHIの２棟目のシェアホテルです。シェアホテルHACHIは１人向けで多数がシェアする客室が中心でしたが、シェアホテルKUMUは４人までが宿泊できる家族向けの客室が中心のホテルとなっていました。本学の学生も参加させたところ、口々に「１人4,500円で宿泊できるから女子会にも最適」と、思わぬ施設に感動していました。金沢にお越しの折にはぜひ利用してみられてはどうでしょうか。場所は武蔵が辻と香林坊の中間で南町バス停すぐ横にあります。

正面出入口



客室

□関東支部

支部長　内田和彦（株式会社岡村製作所）

平成29年度より新体制となり支部活動を行っています。現在平成26年度から28年度の活動報告を兼ねた支部ニュースを制作中です。29年度の活動としては見学会を開催する予定です。支部会員の方々の積極的なご参加とご協力をお願いいたします。

□東海支部

支部長　河辺伸二（名古屋工業大学）
庶務幹事　清水隆宏（岐阜工業高等専門学校）

平成29年７月15日（土）に、東海支部総会が開催され、河田克博前支部長に替わって、新たに今年度より３年間、河辺が支部長の任を負うことになりました。よろしくお力添えのほどお願いいたします。

支部総会は、名古屋工業大学にて開催しました。支部選挙管理委員会からの支部長選挙報告の他、例年通り活動報告・会計報告、事業計画・予算が議題となり審議されました。総会終了後には、河田前支部長と高橋敏郎副支部長が企画し、支部会員からも多く参加して今春実施された「イギリス縦断建築史の旅」の報告会があり、上記２名の他、支部会員の藤田淑子氏と夏目欣昇氏を講師に迎え、写真を鑑賞しながら新旧織り交ぜたイギリスの建築・インテリアの解説を聞くことができ大変充実した講演会でした。

一方、遡って４月21日（金）に、当支部も名を連ねている中部インテリアデザイン連絡会の第20回リレーセミナーとして、近年様々な作品を目にする左官職人・挾土秀平氏による講演会を開催しました。演題は「壁というデザイン」で、土にこだわる壁づくり、伝統的な土蔵や茶室の壁塗りの経験、伝統的な左官技術の継承に関する活動、左官にとどまらない新しい分野での作品やデザインなど、多様な話題が紹介され左官技術の「これまで」と「これから」、両方向について考えさせられる貴重な講演会となりました。

□関西支部

支部長　片山勢津子（京都女子大学）

年度末の評議員選挙に続き、支部長・副支部長の選挙を行いました。支部長は片山に、副支部長は中村孝之・松田奈緒子のお二人に決まりました。また、これを期に組織改革を行うこととなりました。なお片山は４月１日から１年間、在外研究員で不在のため、代理を中村孝之氏にお願いしました。以下は、中村氏からの報告です。

６月10日に、今年度のスタートとなる総会を、グランフロント大阪ナレッジサロンにて開催しました。まず、昨年度末に実施した３年に一度の役員改選選挙の結果に基づく役員構成と新組織を決定しました。新組織では、支部長と、総務担当と事業担当の副支部長２名に加え、総務補佐、事業補佐、会計、WEBそれぞれの運営業務分野ごとに監事を４名選出し、学会運営体制を強化しました。またこれまで支部規約の役員任期として、支部長は連続２期までと定めていますが、副支部長にも同様に適用するよう規約を改正し、組織の硬直化を防ぐとともに、多くの学会の参加意識の育成や組織の若返りなどを期待します。

今年度の活動としては、日本インテリア学会30周年に向けた記念行事として、論文集等の電子アーカイブ化に取り組むこととし、支部内で検討委員会を開始します。本件は今後、各支部の協力を要請することとなりますので、よろしくお願いします。

講演会、見学会については、昨年度より継続して近代の空間デザインの時代性と普遍性を取り上げ、ナレッジキャピタルの超学校及び、関西インテリアプランナー協会等と連携して開催する予定です。また、今後様々な施設、用途で利活用が進むIT, IOT, RTなどとインテリアデザインの関係を考える研究会も検討しています。関西での活動となりますが、関心がある方はご連絡、ご参集いただければと思います。

総会後、近代デザインを現代に活かした事例である、旧阪急梅田駅コンコースのアーチ天井、伊東忠太による壁画とシャンデリアを用いたレストラン「シャンデリアテーブル」で懇親会を行いました。

□中国・四国支部

支部長　谷川大輔（近畿大学）

１．支部総会

■日時：平成29年６月10日（土）14:00～15:00

■場所：穴吹デザイン専門学校 A601

支部総会では、昨年度の事業報告、決算報告、会計監査に関しての報告の後に、本年度の事業計画、予算計画が説明された。本年度も、学術講演会、見学会、ミニレクチャー＆ワークショップ、イベントなど活発に行われる予定である。また本年度は選挙が行われ、支部長を含めて幹事など大幅な若返りが図られた。中四国支部のさらなる活性化が図られるように努力して参ります。

２．学生ネットワーク「マンセル」キックオフ

■日時：平成29年６月10日（土）10:00～17:00

■場所：穴吹デザイン専門学校 A501

中四国支部では、昨年度より大学間の学生同士の交流を図るため、学生ネットワーク「マンセル」を立ち上げ、支部の見学会や講演会などの企画・運営の協力をお願いすることとした。名前を学生から募集して「マンセル」とし本年度から本格的に始動することとなった。お花見やバーベキュー交流会など学生だけの活動も行われている。主に近畿大学工学部、広島工業大学、広島女学院大学、安田女子大学、穴吹デザイン専門学校の学生を中心に行い、その輪を広げていく予定である。

学生ネットワークの様子

３．総会講演会（支部会員による講師）

＊中国インテリアプランナー協会共催

■題目：「坂出人工土地の今と未来の記憶」

■講師：藤井容子氏（香川大学）

■日時：平成29年６月10日（土）15:30～17:00

■場所：穴吹デザイン専門学校 A502

香川大学の藤井容子先生に、現在ご自身が進められている「坂出人工土地の再生計画」について、近年の研究調査の結果を踏まえてご講義頂いた。坂出人工土地は、香川県坂出市に浅田考らによって1962年に構想され、メタボリズムグループの大高正人の設計によって1986年から1986年にかけて建設され、広島県にある基町団地のモデルとなった建物である。この坂出人工土地も、老朽化が進み今後の使い方が問題となっているが、その活用法の提案を藤井先生の研究室で行っている。我が国のモダニズム建築の保存再生の先端的な事例であり、大変刺激的な講義で、会場も数多くの質問が飛び交い白熱した議論となった。

藤井容子先生の講演

□九州支部

支部長　森永智年（九州女子大学）

旧松本邸　無料見学の催し

今年度の日本インテリア学会29回大会は10月21、22日と北九州市にある九州女子大学で行われることになっています。当初、大会の見学会に旧松本邸を加える予定でしたが、21日は、年２回の特別一般公開日にあるため学会主催での見学会として計画ができませんでした。そこで、大会の見学会とは別に予約制（50名まで先着順）で旧松本邸見学の催しを九州支部として実施することになりました。

つきましては、見学を希望される方は下記のメールアドレスへご氏名と所属、連絡先メールアドレス記載して、申し込みをお願い致します。ただし、定員になり次第、誠に恐縮ですが応募を終了させていただきます。

＊特別一般公開日ですが、予約制ですので、個人で行かれる場合は別途事前予約が必要になりますのでご注意下さい。

■見学日時：10月21日（土）午前11時～12時
（解説者なしで建物内自由見学）

■集合場所：小倉駅前（小倉駅北側階段）に10時30分集合後に貸切バスで旧松本邸へ移動、見学後は旧松本邸より小倉駅までバスで移動予定

■費用：無料

なお、直接旧松本邸に行かれる方はその旨をメールで申し込まれるときにお知らせ下さい。

■応募先：c-morinaga@kwuc.ac.jp

「旧松本邸見学に応募します。ご氏名、所属、連絡

先メール、携帯電話番号」を記載してメールにて申込をお願い致します。

■重要文化財（建造物）旧松本家住宅

旧松本邸は、わが国産業界の重鎮・松本健次郎（1870～1963）の旧宅で、大規模な洋館と日本館、数棟の付属室からなる明治後期の典型的な貴紳住宅です。

洋館の設計は、日本近代建築の先駆者・辰野金吾（1854～1919）の主宰する辰野・片岡事務所が当たり、日本館の設計は、洋館の建築監督をした久保田小三郎が行いました。

洋館の外観は、絵画的な建築様式をとり、ハーフティンバー風の壁面とアール・ヌーヴォーの細部意匠にその特徴があります。

日本館は、車寄玄関を持つ書院造りの建物で、大座敷・中央書院の二つの座敷をはじめ多くの居室があります。

約1.3ヘクタールの広大な庭園の中に、静かなたたずまいをみせるこの和洋併設の住宅は、当時のまま現存する全国唯一の例として貴重であり、特に洋館は、明治の洋風住宅の到達点を示す名建築として高く評価されています。

〈上　　棟〉洋館・蔵：明治43年（1910）８月13日／
日本館：明治42年（1909）10月11日

〈建築面積〉洋館：624.9平方メートル／
日本館：466.1平方メートル

（北九州市教育委員会：旧松本邸前設置の立看板より）

旧松本邸外観

旧松本邸内部

■平成29年度研究部会だより

□歴史部会報告

部会長　河田克博（名古屋工業大学）

今回の報告は、とくにありません。

□人間工学部会

部会長　白石光昭（千葉工業大学）

従来の活動としまして研究会を実施してきましたが、昨年は開催できませんでした。今年度はなんとか開催できればと考えております。毎年お願いしているのですが、研究会のテーマ等にご希望がある方はぜひご連絡ください。よろしくお願いいたします。

また、一緒にディスカッションできるだけでも参考になりますので、人間工学あるいはその周辺領域の内容に関心のある方がおられましたら、ぜひご連絡ください。

□教育部会

部会長　金子裕行（市川工業高等学校）

１　第１回教育部会

期日　平成29年５月30日

会場　公益法人全国工業高等学校長協会（全工協）
工業教育会館（東京都千代田区飯田橋）

議題は、（１）教育部会の組織について（２）全国高等学校インテリア科教育研究会（全イ研）との交流について（３）教育部会の基本方針についてとし、協議しました。

今年度より教育部会の活動を本格化させようと考えています。先ずは、教育部会の組織を確立するため、現メンバーに加え、大学教員、高校教員、企業会員の中からも幅広く募集することとしました。

２　第50回全国高等学校インテリア科教育研究大会

期日　平成29年８月３日

会場　神宮会館（三重県伊勢市）において、「日本インテリア学会と全国高等学校インテリア科教育研究会（全イ研）との交流について」と題して全イ研に所属する学校関係者に対して、（１）日本インテリア学会の紹介（２）インテリアデザイン教育の経緯（３）インテリアデザイン教育と建築教育の違い（４）日本インテリア学会の果たす役割について説明しました。今後のインテリア教育には、カリキュラム、教員の人材育成、教材支援など多くの課題があり、これらの整備がインテリア教育の実践には不可欠であり、日本インテリア学会の

果たす役割が大きいことを伝えました。

全イ研に所属する教員や企業関係者に対し、今後のインテリア教育を考える人材として、教育部会への参画を呼びかけたところ、数名の教員や企業関係者が名乗りを上げ、協力していただけることになりました。

□期限付き研究部会

研究部門代表　西出和彦（東京大学）

期限付き研究部会の公募について

学会というものは、会員が会費を払って対価を求めるだけでは衰退してしまいます。会員自らが「自分たちの学会」という意識をもって参加することによって活発で参加する意義を持てる学会となるものでしょう。その学会活動は時代に対応し、社会のニーズにすばやく対応することで，会員もやりがいを感じることができるでしょう。

そのために「２年間の期限付きの研究部会」を公募することになりました。今の時代にふさわしいテーマでやる気のあるメンバーの応募を期待しています。本年度はすでに締め切りましたが、15万円程度の予算で３部会程度の設置を見込んでいます。予算が少額で恐縮ですが、いやいややる受け身の学会活動ではなく、自分たちの学会活動、また若手の参加によって学会を活性化したいと考えます。

■事務局より

白石光昭（千葉工業大学）

総会が無事終了いたしましたので、会員の皆様には総会後に年会費の請求をさせていただきました。大変恐縮ですが、お支払いをお済みでない方は出来るだけ早めにお振込み頂ければ幸いです。

なお、大会前に準会員として加入を希望される学生の方はできるだけ早くご連絡ください。逆に、準会員の方で退会を希望される方は速やかに事務局へご連絡ください。よろしくお願いいたします。

最後に事務局への問い合わせについてですが、電子メールまたはお電話で頂けますが、お急ぎでない場合は電子メールが確実ですので、よろしくお願いいたします。

■ 編集後記

総会のご報告ならびに大会準備号として、会報59号をお届けします。９月上旬の発行予定でしたが、約一ヶ月遅くなりましたことを、お詫び申し上げます。

今号の作業をしている間、九州北部や秋田県に大きな災害がありました。被災された方々の一日も早い安定した生活を願います。凄惨な被災現場の復興作業を観る度、インテリアが関われないもどかしさを感じ、時には「インテリアは無力なのではないか」とまで考えます。それでも段ボールに囲まれた空間から、仮設住宅、さらには復興支援住宅へと移る中で、被災者の方々の笑顔や苦悩を伺っていると「インテリアの出番もいつかやってくる」と思えてきます。若輩者の微力も何かの役に立てればと願うこの頃です。

一方、今号の発行にあたり、何より自身の無力さを痛感致しました。執筆・編集には多くの方のご協力を頂きましたこと、改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。新米広報委員ですが、少しでも皆様の役に立つ情報提供が出来ます様、尽力してまいります。引き続き、皆様のご協力のほどよろしくお願いいたします。

（広報委員：西岡基夫）

■日本インテリア学会会報第59号（2017.9.30発行）
編集者：　棒田邦夫　西岡基夫
発行者：　直井英雄（日本インテリア学会会長）
広報委員会：棒田邦夫（委員長）、小俣祐樹、
清水隆宏、松尾兆郎、井上貴詞、
西岡基夫
e-mail：jasis.koho@gmail.com
■事務局
日本インテリア学会　事務局　押切泰子
〒275-0016　千葉県習志野市津田沼2-17-1
千葉工業大学　白石研究室気付
電話：080-2386-5652　FAX：047-478-0552
e-mail：jimukyoku@jasis-interior.jp